

「質問時間のバランス」

私と同期の石崎徹衆議院議員が、衆議院での与野党の質問時間バランスの見直しを求めた件で、野党から

議員が一人も入っていないのも当然です。そもそも質問の機会が極端に少ないのですから。

ないので、与党質問によって議事録に法案の趣旨を明快に記すという重要な意味があります。衆議院の委員会では

発言する事は公式の議事録として残るので、とても重要な意味があります。いくら党内の審議機関で発言しても公式記録に残らないので、結局仕事の記録として残らないし、またうやむやにされたりしますから、やはり委員会で議事録に残る発言をしたいのです。

反発が出ています。これは私も何度も担当委員会の筆頭理事に求めてきた問題なのです。本来なら委員会での質問時間は議席数に応じた配分がなされるべきですし、参議院ではほぼ議席に応じた配分となっています。衆議院では国会対策の一環で、野党に過度に配慮した質問時間配分になっています。だいたい6.5対3.5の割合で野党に多く配分されていますが、本来なら逆の割合になるべきところではあります。ですから与党議員は数が多いのに質問時間が少ないので、野党議員と比べて、質問出来る機会が四分の一にも満たないのです。三ツ星国会議員ランキングみたいなモノがネットや雑誌に出てきますが、そこに与党

委員会の質疑には二つの種類があつて、一つが法案質問で、もう一つが一般質問です。法案質問と一般質問を交互に行なうルールが衆議院の委員会では採用されています。法案質問については与党は事前審査済だから短くていいという論に一理ありますが、一般質問は与党議員と

また野党は対決法案となると、質問時間をたくさん求めますが、マスコミ受けする同じような質問を繰り返すため、本質的な議論にならなかつたり、法案質問なのにその法案と全く無関係なマスコミ向け発言をする。質問機会が多すぎてマトモに質問準備が出来ず週刊誌や新聞ネタのオウム返し

ような質問でこなしながら、ヘトヘトになっている野党議員さんも散見されます。そもそも野党議員には、テレビが入る時と入らない時とは、人格が入れ替わったのかと思うほど豹変する方々も多々見受けられます。中には国会対策委員会から半ばやらされている若い議員も居て、見えていて可哀想だと思ふ時さえあります。野党議員にも素晴らしい質問をする方々も、もちろん沢山おられますが、いずれにしても野党偏重の質問時間配分はこれまでの国会対策の歴史的结果とはいえ、健全な国会活動を歪めており、是正すべきことだと私は思います。

また野党は対決法案となると、質問時間をたくさん求めますが、マスコミ受けする同じような質問を繰り返すため、本質的な議論にならなかつたり、法案質問なのにその法案と全く無関係なマスコミ向け発言をする。質問機会が多すぎてマトモに質問準備が出来ず週刊誌や新聞ネタのオウム返し

また野党は対決法案となると、質問時間をたくさん求めますが、マスコミ受けする同じような質問を繰り返すため、本質的な議論にならなかつたり、法案質問なのにその法案と全く無関係なマスコミ向け発言をする。質問機会が多すぎてマトモに質問準備が出来ず週刊誌や新聞ネタのオウム返し

また野党は対決法案となると、質問時間をたくさん求めますが、マスコミ受けする同じような質問を繰り返すため、本質的な議論にならなかつたり、法案質問なのにその法案と全く無関係なマスコミ向け発言をする。質問機会が多すぎてマトモに質問準備が出来ず週刊誌や新聞ネタのオウム返し

また野党は対決法案となると、質問時間をたくさん求めますが、マスコミ受けする同じような質問を繰り返すため、本質的な議論にならなかつたり、法案質問なのにその法案と全く無関係なマスコミ向け発言をする。質問機会が多すぎてマトモに質問準備が出来ず週刊誌や新聞ネタのオウム返し

Facebookでも活動報告を行っています。(Facebookアドレス) <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください!お待ちしております。

あ な み よ う い ち

衆議院議員

穴見陽一

後援会
事務所

〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net

